

日本教育方法学会

第57回大会プログラム

前日 9月24日(金)	18:00	全 国 理 事 会 (オンライン開催)
	19:30	

第 一 日 9月25日(土)	9:00	課題研究Ⅰ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に ついての教育方法学的検討			課題研究Ⅱ 今、教育方法学は教師の実践知を どう捉え直し、創出するか		
	11:15						
	11:30	総 会					
	12:20	休 憩					
	13:00	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6
	15:40	休 憩					
	16:00	シ ン ポ ジ ウ ム 東日本大震災10年のこれまでとこれから：学力とコンピテンシー					
	18:30						

第 二 日 9月26日(日)	9:00	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12
	11:40	休 憩 / 新理事会					
	13:00	課題研究Ⅲ 教育実践研究における研究倫理： 教育方法学研究の臨床性			課題研究Ⅳ 1人1台端末は学校をどう変えるのか		
	15:15	休 憩					
	15:30	ラウンドテーブル ①	ラウンドテーブル ②	ラウンドテーブル ③	ワークショップ ①	ワークショップ ②	
	17:00						

2021年 9月25日(土)・9月26日(日)
於 宮城教育大学

大会参加要領

- 1. 会場案内：**2021年度第57回大会宮城教育大学大会は、全プログラムをオンラインにて開催いたします。オンラインの開催にあたり、Zoomというオンライン会議システムを利用いたします。オンライン上の「日本教育方法学会第57回宮城教育大学大会オンライン会場」を、学会大会の開催会場といたします。大会期間中は、それぞれのオンライン環境にて学会にご参加ください。
- 2. 受付：**学会 HP より、9月8日までに事前申し込みをしてください。
 - ・学会 HP：https://www.nasem.jp/57th-meeting/
 - ・受付は、日本教育方法学会 HP「第57回大会」「大会参加申し込み」ページにて行います。
 - ・受付期間は、8月23日(月)～9月8日(水)です。
 - ・大会参加費(『大会発表要旨』代を含む)は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受け付けております。
 - ・大会参加費は、ゆうちょ銀行への口座振込にて受け付けております。
口座名：日本教育方法学会
口座番号：01340-0-3467
※通信欄に「第57回大会参加費」とご記入ください。
- 3. オンラインでの参加方法：**「日本教育方法学会第57回宮城教育大学大会オンライン会場」よりご参加ください。
上記の大会参加「受付」をしてくださった方に、9月21日(火)以降に
 - ・『大会発表要旨』
 - ・「日本教育方法学会第57回宮城教育大学大会オンライン会場」に入るためのパスワード
をお送りいたします。
- 4. 研究発表：**発表会場につきましては、「日本教育方法学会第57回宮城教育大学大会オンライン会場」にて部会別の参加 URL を掲示いたします。
 - ・自由研究の発表時間は以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
(但し、口頭発表者が1名の場合は個人研究に準じます。)
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は、口頭発表者を表しています。
 - ・発表資料は、発表者各自で Zoom の「画面共有」機能を利用してご提示いただけます。
- 5. 全国理事会：**オンラインでの開催となります。
 - ・理事には、別途、「2021年度全国理事会オンライン会場」の Zoom の URL とパスワードをお送りいたします。
- 6. 総会：**オンラインでの開催となります。「2021年度総会オンライン会場」の参加 URL よりご参加ください。
 - ・主な議題：会務報告、2020年度決算、2022年度予算案、次期大会校
- 7. 新理事会：**オンラインでの開催となります。
 - ・理事には、別途、「2021年度新理事会オンライン会場」の Zoom の URL とパスワードをお送りいたします。
- 8. 会員懇親会：**第57回大会では会員懇親会は開催いたしません。
- 9. 『教育方法50』：**本年度の学会費を納入された方には、『教育方法50』を郵送いたします。

9月25日(土) 9:00~11:15

課題研究 I

「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての
教育方法学的検討

コーディネーター・司会者

阿部 昇 (秋田大学)

川地 亜弥子 (神戸大学)

提案者

折出 健二 (愛知教育大学名誉教授) 「個別最適な学び」構想はデジタル監視型学びへの変換

奥村 好美 (兵庫教育大学) オランダの教育における個別化・個性化教育

〈設定趣旨〉

2021年1月に中央教育審議会が『令和の日本型教育』の構築をめざして一全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現—という答申を行った。ここでは、サブタイトルにあるとおり「個別最適な学び」とこれまで重視されてきた「協働的な学び」をともに生かしていくという提案がされている。この提案は一見適切であるようにも見えるが、しかし答申は「個別最適な学び」と「協働的な学び」について「一体的」な充実が重要と述べるにとどまり、どう有機的に関わらせていけばいいかについての具体的な提起はない。「公正」の語が削られたうえで、コロナ感染やICTの活用ともかかわって結局のところ「個別最適な学び」が学習目的達成の面から重視され、「協働的な学び」は社会変化に対応できる「必要な資質・能力」の育成を副次的に担うことになる恐れもある。この提案をどう捉えたらよいか、教育方法学の立場から批判的に検討していきたい。

愛知教育大学の折出健二会員には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の関係の危うさを批判的に検討していただく。また奥村好美会員には、オランダの学校教育の事例をふまえながら、この問題について教育方法学的に考察を加えていただく。

9月25日(土) 9:00~11:15

課題研究Ⅱ

今、教育方法学は教師の実践知をどう捉え直し、創出するか (全時間手話通訳付き)

コーディネーター・司会者

西岡 けいこ (香川大学名誉教授)
湯浅 恭正 (広島都市学園大学)

提案者

田上 哲 (九州大学) 問題解決学習における「実践知」
—「切実な問題解決」と「実践者なりのアプローチ」—
高橋 英児 (山梨大学) 生活指導研究運動における実践知の創出と教育方法学
戸田 康之 (埼玉県立特別支援学校
大宮ろう学園幼稚部/ろう者) ろう幼児教育と実践知
—“デフフッド”の視点を踏まえた“ろう保育”の「実践知」—
新井 孝昭 (筑波技術大学/聴者) ろう幼児教育と実践知
—ろう教育における「実践知」を生み出すディスコース—

〈設定趣旨〉

教育方法学は教育の理論と実践を関係的に省察してきた。最近本学会の課題研究で教育スタンダード化やエビデンスが議論された時も、「理論知」に解消され難い「教師の実践知」の重要性が浮き掘りにされる展開となった。

これまで、実践知の創出には、民間教育研究運動や地域の研究サークルが大きく寄与してきた。だがベテラン教員の大量退職期にコロナ禍が重なり、教育のデジタル化に遠隔一斉授業も余儀なくされた今、その伝統が危機に瀕している。貴重な実践知が今後とも発展的に継承・創出されるよう、教育方法学は実践知をより根源的に捉え直す視座を探らなくてはならない。

この課題意識で、教科指導・生活指導の立場に加えて、会員外から、ろう幼児教育の提案をお願いした。ろう児にとっての自然な言語である「手話」をツールとして「遊び」を発展させる保育環境の創出を、幼児のホリスティックな生活世界の援助としてなす、ろうの実践家とその支援者との共同研究による提起である。こうした身体論的観点からの実践知の提起も含めて、諸提案を総合的に議論したい。

9月25日(土) 13:00~15:40

自由研究1

司会者：土屋直人(岩手大学)
豊田ひさき(朝日大学)

- 13:00 ① 石田和男の生活綴方における生活概念とその意義
○河内照治(愛知教育大学大学院)
- 13:30 ② 宮坂哲文の生活指導論と宗教
―「永平清規」を中心に―
○北島信子(同朋大学)
- 14:00 ③ 竹内常一の生活指導論における「ケア」概念の変遷
○星川佳加(大阪健康福祉短期大学)
- 14:30 ④ 戦後奈良女子高等師範学校附属小学校のカリキュラム原理の考察
―重松鷹泰のカリキュラム観との違いに注目して―
○田村恵美(東京家政大学)
- 15:00 ⑤ コア・カリキュラムを志向する境界的な学校例
―戦後初期の動向と冊子類をもとに―
○金馬国晴(横浜国立大学)

自由研究2

司会者：成田雅樹(秋田大学)
的場正美(東海学園大学)

- 13:00 ① フレーベルの「遊びの教育学」構想とその今日的意義
○金原遼(広島大学大学院)
- 13:30 ② ウェルビーイング(Well-being)を高める教育方法に関する基礎的研究
―国際バカロレア(IB)における「探究」との関連性に着目して―
○鄭谷心(琉球大学)
- 14:00 ③ 「インプロ教育」の実践及び研究動向
○園部友里恵(三重大学)
- 14:30 ④ イギリスの小学校における辞書引き学習の導入と教師の学び
○深谷圭助(中部大学)

自由研究3

司会者：遠藤貴広(福井大学)
白石陽一(熊本大学)

- 13:00 ① 組織的授業実践に基づく「見取り」の評価の検討
ー形式的評価から形式的アセスメントへー
○山本佐江(帝京平成大学)
- 13:30 ② マックス・ヴァン・マーンンの解釈学的現象学的方法論と子ども理解についての一考察
○藤原由佳(広島大学大学院)
- 14:00 ③ 総合的な学習の時間における子どもの個性を生かす教師の「支援法」に関する調査研究
ー愛知県東浦町立緒川小学校の実践記録の分析をもとにー
○白井克尚(愛知東邦大学), 久野弘幸(中京大学)
- 14:30 ④ 協同的な探究における子どもの多面的・多角的な思考様式の解明
ー中間項を用いた潜在的諸要因の関連構造の明示化を通してー
○柴田好章(名古屋大学), ○坂本将暢(名古屋大学)
○埜崎志保(名古屋大学), ○岩崎公弥子(金城学院大学)
○丹下悠史(愛知東邦大学), ○田中真帆(小田原短期大学)
○王瀟(名古屋大学大学院), ○鈴木正幸(名古屋大学大学院)
石原正敬(名古屋大学・研究員), 水野正朗(東海学園大学)
花里真吾(名古屋大学大学院), ファウザン アーダン スヤンタラ(名古屋大学大学院)
王芳序(名古屋大学大学院)

自由研究4

司会者：清水禎文(宮城学院女子大学)
中野和光(美作大学)

- 13:00 ① A. D. C. ピーターソンの評価観についての一考察
ー教育の目標・カリキュラムとの関係に注目してー
○有馬実世(お茶の水女子大学大学院)
- 13:30 ② 「ねりあげ」という文化的スクリプトからみた真正の学びの構造
○水野正朗(東海学園大学), サルカルアラニ モハマッドレザ(名古屋大学)
柴田好章(名古屋大学)
- 14:00 ③ イギリスにおける Oracy (オラシー) 教育の現状 (2)
ー「話すことで学ぶ・話すことを学ぶ」理論と実践ー
○矢野英子(大分大学)

自由研究5

司会者：澤田 稔(上智大学)
竹内 元(宮崎大学)

- 13:00 ① 学校運営協議会と共に行う学校改善
— 3校の学校運営協議会の取り組み実践から—
○瀧谷 あゆみ(東京都杉並区立永福小学校)
- 13:30 ② 地域の教育力を高めるための社会参加学習に関する取組
— 兵庫県西宮市における事例を中心に—
○本多 千明(武庫川女子大学)
- 14:00 ③ 探究的な学びを通じた子どもの社会や地域への参画とセルフアドボカシー
— 地域に根差した小さな高校の「教育魅力化」の実践から—
○松尾 奈美(島根大学)
- 14:30 ④ 地域学校協働活動におけるコーディネーターの教育方法学的検討
— 人材の「固定化」と活動の「属人化」の克服を目指した「見える化」に着目して—
○早坂 淳(長野大学)
- 15:00 ⑤ 地域と学校の連携・協働を目指した食育の推進
— 地域展開版魚食育教材を用いて—
○浅沼 美由希(岩手県立大学), 田代 高章(岩手大学)

自由研究6

司会者：鹿毛 雅治(慶應義塾大学)
三石 初雄(東京学芸大学名誉教授)

- 13:00 ① 小学校理科授業における学習者の認知状況と発言内容の乖離
— 思考様式の対称性に着目して—
○ファウザン アーダン ヌサンタラ(名古屋大学大学院)
柴田 好章(名古屋大学)
- 13:30 ② 学校図書館で個別テーマの科学的探究を行う中学生の学習過程に関する検討
— C. C. Kuhlthau の ISP モデルを踏まえて—
○新居 池津子(東京大学大学院)
- 14:00 ③ 高橋金三郎の創出した「教授学」
— すべての子どもに高いレベルの科学をやさしく教える—
○吉村 敏之(宮城教育大学)
- 14:30 ④ 理科教師の非同期オンラインネットワーク活動から考察するエビデンスと説明の関係
○大野 栄三(北海道大学)

9月25日(土) 16:00~18:30

シンポジウム

東日本大震災10年のこれまでとこれから： 学力とコンピテンシー

コーディネーター・司会者

梅原利夫(和光大学名誉教授)

田端健人(宮城教育大学)

提案者

吉田剛(宮城教育大学) ホールスクールアプローチによる学校経営の進展
—気仙沼市立唐桑小学校のESD実践—

市瀬智紀(宮城教育大学) ホールエリアでの体験型探究学習を柱としたESD
による非認知能力の育成とその成果

本図愛実(宮城教育大学) 子どもの成長の可視化に向けて
—「チーム」による挑戦—

三浦浩喜(福島大学) OECD東北スクールとその後の後継実践

〈設定趣旨〉

東日本大震災からの10年は、人間の生が根源的に問われた10年でもあった。復興の資金調達においては、「創造的復興」なる看板が早々に掲げられたが、創造する主体の構成員であるべき子どもたちは、そのための力を獲得してきたのだろうか。激甚地域となった宮城県では、学力向上と不登校の問題が政策課題とされ続け、原子力発電に関する諸問題も未だ解決にはほど遠い。

むろん、子どもの生へのまなざしが停滞してきたわけではない。コンピテンシーやエイジェントなどの用語とともに、グローバル世界につながり、子どもの可能性を広げようとする取組も進んできた。その一方で、グローバル世界で語られる用語には個別の国家の事情を超えた多義性も含まれることにも注意が必要である。たとえば、OECDはPISAで測定される「学力」は「非認知能力」と相関し、「非認知能力」は測定可能だとする。こうした国際的測定の圧力傾向に対しては、「学力」や「非認知能力」の捉え方はもとより、測定の方法論の吟味とともに、建設的に対峙していく必要があるだろう。

自分自身とコミュニティを創造していく力を子どもたちに育成するために、この10年、何ができ、何が課題として浮上したのか。今後、そこからどのように進むべきなのか。子どもの諸能力に焦点をあて、宮城と福島を2軸に多元的な議論を試みたい。

9月26日(日) 9:00~11:40

自由研究7

司会者：柴田好章(名古屋大学)
田代高章(岩手大学)

- 9:00 ① ペーターゼンにおける自律的教育科学の構想
—教育学的事実研究と学術的な教師教育に着目して—
○安藤和久(広島大学大学院
日本学術振興会特別研究員)
- 9:30 ② 教師のコミットメントを高める校内研究のデザイン
○山中佑介(大阪府寝屋川市立中央小学校)
- 10:00 ③ ほんものの学びについての基礎的考察
—デューイからの示唆—
○米村まろか(中部大学)
- 10:30 ④ 授業研究を「核」とする学校づくりに関する研究
—島小における学校公開研究会を中心に—
○狩野浩二(十文字学園女子大学)
- 11:00 ⑤ インフォーマルな校内授業研究コミュニティにおける教師の経験
○山路茜(立教大学)
○有井優太(東京大学大学院
日本学術振興会特別研究員)
○岩井智宏(桐蔭学園小学校)

自由研究8

司会者：松下佳代(京都大学)
三橋謙一郎(徳島文理大学)

- 9:00 ① 教員養成課程学生の多文化共生に対する価値規範
—多様な背景をもつ子どもの理解に必要な資質の分析—
○馬場智子(岩手大学)
- 9:30 ② 教職課程科目「教育社会学」における映像資料を用いた授業に関する考察
—教材構成の視点と課題を中心に—
○張建(東京電機大学)
- 10:00 ③ 教育実習生が研究授業で出会う困難場面とその対処に関する探索的研究
○藤井佑介(長崎大学)
- 10:30 ④ 教師の授業観と生徒の学習観が変わる博学連携授業
○佐竹渉(千葉工業大学地球学研究センター)
○鈴木貴人(福島大学教職大学院)
○柳本一休(福井県立鯖江市東陽中学校)
○三河内彰子(明治学院大学)

9月26日(日) 9:00~11:40

自由研究9

司会者：樋口直宏(筑波大学)
久田敏彦(大阪青山大学)

- 9:00 ① 通常学級における特別な教育的ニーズを持つ生徒の社会的相互作用への認識
○緒方亜文(東京大学大学院)
- 9:30 ② A.バルトルシャットによる教授学的授業研究の批判的検討
—教授学研究における実証性と規範性に着目して—
○松田充(広島大学)
- 10:00 ③ 社会的公正を志向する Lesson Study
—米国サンフランシスコ統合学区の取り組みから—
○北田佳子(埼玉大学)
- 10:30 ④ 林竹二の教育実践を再考する
—林竹二の教育実践資料の分析を通して—
○松本匡平(ヴァイアートル学園洛星中学校高等学校)

自由研究10

司会者：池野範男(日本体育大学)
江間史明(山形大学)

- 9:00 ① 授業における沈黙の意義
—中学校社会科の授業分析を通して—
○王芳序(名古屋大学大学院), 柴田好章(名古屋大学)
- 9:30 ② 物語の授業における生徒の教材解釈と相互理解の可能性
—『おじいさんのランプ』(新美南吉)の感想分析による—
○中道豊彦(愛知県立半田高等学校)
- 10:00 ③ 生涯学習の視点からみる学校音楽経験の意味
—学校音楽の「語り」と分析—
○笹野恵理子(立命館大学)
- 10:30 ④ 高等学校芸術(音楽)の授業における歌唱イメージの伝え合い過程の分析
○横山真理(東海学園大学), 鈴木健司(東海中学校)
- 11:00 ⑤ 社会科教師のゲートキーピング
—日本とアメリカの授業の比較から—
○酒井喜八郎(南九州大学)

9月26日(日) 9:00~11:40

自由研究11

司会者：三村和則(沖縄国際大学)
森本洋介(弘前大学)

- 9:00 ① 授業者の視線カメラ映像による授業認知の省察
○細川和仁(秋田大学)
- 9:30 ② 協働的な生徒へのケアを目指す養護教諭が他教職員に行う交渉とその影響
ー公立中学校における実践をもとにー
○梶原尚之(東京大学大学院)
- 10:00 ③ 教員の教職アイデンティティ形成についての一考察
ー教員のナラティブに着目したイデオグラフィックな分析法を用いてー
○溝上敦子(西日本短期大学)
- 10:30 ④ 探究型カリキュラム実践を通して育まれる教師コンピテンシーの探索
ー高校とのアクション・リサーチにもとづく教師の語りの定性的分析ー
○木村優(福井大学)
- 11:00 ⑤ 教師視点映像記録を活用した授業者の授業改善
ー道徳とプログラミングの事例分析に基づいてー
○平山勉(名城大学), ○中山真樹(高槻市立桃園小学校)
○平山幸代(大府市立西中学校), ○後藤明史(名古屋大学)
○谷口正明(名城大学), 竹内英人(名城大学)

自由研究12

司会者：大野栄三(北海道大学)
福田敦志(大阪教育大学)

- 9:00 ① GIGA スクール構想下における幼稚園教員の認識
ープログラミング教育に関するイメージマップ調査を通してー
○安谷元伸(四條畷学園短期大学)
- 9:30 ② Instructional Rounds の試行に対する指導主事からの評価
○廣瀬真琴(鹿児島大学), 森久佳(京都女子大学)
木原俊行(大阪教育大学), 深見俊崇(島根大学)
宮橋小百合(和歌山大学)
- 10:00 ③ 1人1台環境の学習活動デザインにおける ICT 活用のフレームワーク
○小柳和喜雄(関西大学)
- 10:30 ④ コロナ禍で問われたPBLとレジリエンス
ーレジリエントなPBLは、学習者のレジリエンスを育むー
○広石英記(東京電機大学)

9月26日(日) 13:00~15:15

課題研究Ⅲ

教育実践研究における研究倫理：
教育方法学研究の臨床性

コーディネーター・司会者

草原和博(広島大学)

藤江康彦(東京大学)

提案者

宮原順寛(北海道教育大学) エピソードで語る教育臨床研究の倫理に関する問題群

—授業研究と現職社会人院生指導の現場から—

吉永紀子(同志社女子大学) 授業研究において教師と協働して探究する教育方法学者としてのありようを省察する

—実践を省察する教師との対話に向けて—

〈設定趣旨〉

研究「実践」において、研究設問をたて、研究方法を検討し、研究対象を選定し対峙し、得られた知見を研究者コミュニティや社会と共有する、それぞれの局面における判断、情動、それらのあらわれとしての行為の背景には、研究対象となる事象をめぐる、なにが善であるか、研究者としての責任と義務とは何か、に関わる価値や規範がある。それらを研究倫理とすれば、教育方法学者に固有のそれは果たして存在するのか。存在するとしたらそれはどのような特質を有するものか。これらの問いを探究することを通して、教育方法学という学問のありように迫ることができ、教育方法学者の学問的アイデンティティの原理的考察に資する議論も可能となるのではないか。本課題研究においては、上述の問いを、とりわけ教育方法学研究の臨床的側面を鑑み、フィールドにおける振る舞い、子どもや教師との関係性形成、研究遂行におけるジレンマ状況の生成等の点から考察する。

9月26日(日) 13:00~15:15

課題研究Ⅳ

1人1台端末は学校をどう変えるのか

コーディネーター・司会者

小柳 和喜雄 (関西大学)
西岡 加名恵 (京都大学)

提案者

稲垣 忠 (東北学院大学) ICTを基盤とした持続可能な公教育の構築に向けた諸課題の検討
巨理 陽一 (中央大学) エンハンスメントとアダプテーション
ー外国語の授業づくりにおけるデジタルテクノロジーの可能性と課題ー
木原 俊行 (大阪教育大学) 1人1台端末時代の学校の在り方
ーどのような組織になるべきかー

〈設定趣旨〉

コロナ禍を背景としたGIGAスクール構想の前倒し実施により、全国の小・中学校において、2021年度より1人1台端末が実現されることとなった。このことは、ICT機器を「教具」としてだけでなく「文具」としても用いる授業づくりを可能とするものである。これにより、教師の授業づくりや子どもたちの学びはどのように変わるのか。授業において重要な身体性は、どのように担保されるのか。また、蓄積される学習データは、どのように管理され、活用されるべきなのか。さらに、宿題や反転学習などの活用によりカリキュラムの履修原理が問い直され、従来の学校が持っていた時間と空間の枠組みが揺らぐ中で、私たちがめざすべき学校像とはどのようなものとなるのか。

本課題研究では、教育方法学の視点から、1人1台端末がもたらす可能性と危険性を整理するとともに、今後の授業や教師、カリキュラムや学校の在り方を検討したい。

9月26日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル①

対話的な学びとコミュニティ形成：
討議倫理にフォーカスした事例提案

企画者

藤井佳世(横浜国立大学)
田中伸(岐阜大学)

提案者

藤井佳世(横浜国立大学)
福井駿(鹿児島大学)
半沢裕太(宮城教育大学教職大学院)

司会・指定討論

田中伸(岐阜大学)

〈設定趣旨〉

新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」が提起された。本概念は、すでにさまざまな研究が進み、学校現場では教科を問わず、多様な実践が行われている。しかしながら、このキャッチフレーズは多義的であり、その内実を同定することは難しい。本ラウンドテーブルでは、対話的学びの一つのあり方である p4c (Philosophy for Children) を事例とし、対話をコミュニティ形成の視点から再検討することを目的とする。そのためのキーワードとして、討議によって規範に妥当性を与え、合理化された生活世界を構築する討議倫理を設定する。

ラウンドテーブルは、宮城県内及び岐阜県内の学校と連携して行う。具体的には、事前に討議倫理を軸とした対話的な学習を実施し、その授業映像を本ラウンドテーブルに参加する学会員と共有する。参加者は、事前に2つの授業を参観した形で企画に参加いただきたい。当日は、まず、藤井が討議倫理についての概説および、教育実践へ応用する意義と可能性を提案する。その上で、ハワイ大学にて p4c を実地的に調査・研究し、現在はカリキュラム論に基づき哲学教育と教科教育の往還に関する研究を行っている福井が、対話の可能性を実践と共に提案する。その後、宮城県内の中学校教員である半沢は自身が進めている対話に関する学びの実際と、数値によるその評価を提案する。司会兼指定討論は、コミュニケーション理論に基づく社会科教育論の研究を進めている田中が担当する。

上記のメンバーが中心となり、学会員と共にラウンドテーブルで議論を行うことで、討議倫理の視点に基づいた対話的な学びの新しい視点、およびその学習論の新たな可能性を検討してゆく。

※本ラウンドテーブルでは、事前に授業動画を公開します。参加される方には事前の試聴を強くお勧めいたします。なお、動画へのアクセス方法や公開時期については、「日本教育方法学会第57回宮城教育大学大会オンライン会場」にてお知らせします。

9月26日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル②

「学びの共同体」の理論的実践的検討
— リスニング・ペダゴジーの観点から —

企画者

浅井 幸子 (東京大学)

提案者

齋藤 智哉 (國學院大學)

守屋 淳 (北海道大学)

橘高 佳恵 (横浜国立大学)

永島 孝嗣 (東京学芸大学)

黒田 友紀 (日本大学)

〈設定趣旨〉

「学びの共同体 (learning community)」とは、ジョン・デューイがシカゴ大学に附設した実験学校に由来する学校像を表現する概念である。世界的な新教育、革新主義 (progressivism) の系譜において普及し、今日では21世紀の学校のヴィジョンを提供している (佐藤 2012)。日本では、佐藤学が主導する「学びの共同体としての学校 (School as Learning Community)」のネットワークにおいて、「学びの共同体」のヴィジョンと哲学に基づく学校改革への取り組みが行われてきた。

学びの共同体のヴィジョンにおいて、学校は、多様な生き方や考え方の対話的コミュニケーションが行われる公共空間として捉えられている。そのような公共空間において、一人ひとりが主人公となり、他者とともに生きる民主主義の実現が目指される。佐藤 (2012) によれば、このような公共性と民主主義は、「聴き合う関係」によって生み出される。このように聴くこと、聴き合うことを重視するのは、日本のSLCだけではない。新教育・革新主義の系譜をひく教育のアイデアの多くが、リスニング (聴くこと、耳を傾けること、傾聴) の意義を強調し、探究している。

このラウンド・テーブルでは、そのようなリスニングを基盤とする教育のアイデアを「リスニング・ペダゴジー」と呼ぶ。そして、リスニング・ペダゴジーの理論と実践の検討を通して、学びの共同体における公共性と民主主義のアイデアに迫りたい。

司会 齋藤 智哉

報告1 守屋 淳 「聴くというあり方」

報告2 橘高 佳恵 「進歩主義教育におけるリスニング・ペダゴジー」

報告3 浅井 幸子 「レジュヨ・インスパイアのリスニング・ペダゴジー」

指定討論 永島 孝嗣・黒田 友紀

9月26日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル③

宮城教育大学の臨床教育研究 — 授業を根本から問いなおす —

企画者

吉村敏之(宮城教育大学)

提案者

吉村敏之(宮城教育大学)

松本匡平(洛星高等学校)

〈設定趣旨〉

宮城教育大学において、林竹二が、学長(1969年~1975年在任)として教員養成に責任を負うため、「臨床的な教育の学」の創出に取り組んだ。特に、「授業」を、学校教育の核であり、教師の仕事の中心と位置づけた。林自身が、授業の中での子どもの事実を理解しようと、小学校、中学校、高校で、「開国」「人間について」「ソクラテス」「田中正造」などの「授業」を行った。授業後の児童生徒の感想、授業中の表情や姿勢の写真などの事実に拠り、「子どもはみんな勉強したがっている」「深く重い内容の授業であれば、成績の差が消え、魂が浄められる」といった、子どもの可能性、教育の力を確信した。そして、授業を、「子どもの内に深く蔵されているたからを引き出す」ために「教師がきびしく組織し、子どもたちだけでは到達できない高みまで自分の手や足を使って登ることを助けること」ととらえた。質の高い授業を創るために「教育における臨床の学」が不可欠とした。

林のもとで、「教授学」の展開によって「臨床の学」を創ろうとした、高橋金三郎、斎藤喜博、それぞれの実践と研究の概要を示す。さらに、「主体的・対話的で深い学び」が求められる今日、「教授学」の継承と発展のあり方をさぐる。(吉村)

林の遺した膨大な資料をデジタル化する作業を進め、新たに見出しつつある林竹二研究、とりわけ林の授業実践についての研究への展望を、高校教師としての自らの経験をふまえ、示す。(松本)

9月26日(日) 15:30~17:00

ワークショップ①

教師視点映像記録を活用した授業研究方法2

企画者

平山 勉 (名城大学)

提案者

後藤 明史 (名古屋大学)

谷口 正明 (名城大学)

協力者

中山 真樹 (高槻市立桃園小学校)

平山 幸代 (大府市立西中学校)

〈設定趣旨〉

「映像記録の特性を生かした授業研究の方法」は、本学会でも多くの積み上げがある。

本ワークショップでは、第55回大会に引き続き、教師視点の映像記録を活用した授業研究方法について、「同一の学習指導案で初任者教師と熟練教師が実施した教師視点映像記録の比較試聴（演習）」を中心に、これまでの分析とそれらを教職授業の提示教材として適用した事例を紹介する。

アイトラッキングの活用に関しては、海外では最近、アイトラッキングカメラを使った教師の視点の研究が始まりつつある。例えば、Wolff (2016) らによると、教室内での生徒の問題行動を記録したビデオを熟練教師と初任者教師に見せて、彼らの注視点の分布がどの程度違うのかを分析している。そして、熟練教師の注視点の方が、初任者の注視点よりもばらつきが少ないことを見出している。

企画者らは、授業実施者である教師の一人称視点の映像と注視点を記録し、これ自体を分析の対象としている。これらの試みを紹介し参加者とともにその可能性を議論したい。

当日、以下の流れを予定している。

- 1) 参加者のアイスブレイキング
- 2) アイトラッキングカメラ、教師視点映像記録の説明
- 3) 同一の学習指導案で初任者教員と熟練教員が実施した教師視点映像記録の比較試聴
- 4) 3) の分析事例、教職授業への適用事例紹介
- 5) 情報交換

9月26日(日) 15:30~17:00

ワークショップ②

授業記録にもとづく比較授業分析

— 日本の理科授業にみる学びの固有性と普遍性の探究 —

企画者

柴田好章(名古屋大学)

サルカール アラニ・モハメッド レザ(名古屋大学)

坂本将暢(名古屋大学)

提案者

ファウザン アーダン ヌサンタラ(名古屋大学大学院)

タン シャーリー(名古屋大学・研究員)

〈設定趣旨〉

本ワークショップでは、過去10年間の国際比較授業分析のワークショップの成果をもとにし、提案者らが協同して研究を進めている比較授業分析を行う。まず、提案者側から、逐語記録を用いた授業分析の方法と、分析対象授業の紹介を行う。そして、参加者も、授業逐語記録を読みながら、授業分析を行い、意見交換をする。今回の授業分析では、4年生の「電気のはたらき」を内容とする日本の理科授業を対象とする。海外からの視点を入れながら比較授業分析を行い、日本の理科授業にみる学びの固有性と普遍性の探究を試みる。

逐語記録の検討を通して具体的な子どもの学びの姿を通して、以下の点に議論が及ぶことを期待している。

1. 既存の経験や知識が、新たな状況における予想にどのように反映するのか？
2. 正しい予想をした児童には、十分な理解が伴っているのか？
3. 実験の結果から、児童はどのように考えを変容させていくのか？
4. 予想の間違いに気付いた児童は、どのように学びを発展させているのか？
5. 十分に試行錯誤ができる支持的風土を、どのように築いていくのか？
6. 質の高い学びとは何か？
7. 質の高い学びをどう保障するか？
8. 教育における Equity とは何か？

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 3	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,400円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,940円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(1,960円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革－新学習指導要領の教育方法的検討－	1 9 9 9	(1,860円)

(価格は本体価格)

〒114-0023

東京都北区滝野川7-46-1

明治図書

TEL.(編)03-5907-6620

TEL.(営)048-256-2337

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,800円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,800円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2 0 0 2	(1,900円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2 0 0 3	(1,900円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2 0 0 4	(1,900円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2 0 0 5	(1,900円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業－どのような学力を形成するか－	2 0 0 6	(2,000円)
教育方法36.	リテラシーと授業改善		
教育方法37.	－PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究－ 現代カリキュラム研究と教育方法学 －新学習指導要領・PISA型学力を問う－	2 0 0 7	(2,000円)
教育方法38.	言語の力を育てる教育方法	2 0 0 8	(2,000円)
教育方法39.	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	2 0 0 9	(2,000円)
教育方法40.	デジタルメディア時代の教育方法	2 0 1 0	(2,000円)
教育方法41.	東日本大震災からの復興と教育方法：防災教育と原発問題	2 0 1 1	(2,000円)
教育方法42.	教師の専門的力と教育実践の課題	2 0 1 2	(2,000円)
教育方法43.	授業研究と校内研修－教師の成長と学校づくりのために－	2 0 1 3	(2,000円)
教育方法44.	教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化	2 0 1 4	(2,000円)
教育方法45.	アクティブ・ラーニングの教育方法的検討	2 0 1 5	(2,000円)
教育方法46.	学習指導要領の改訂に関する教育方法的検討 －「資質・能力」と「教科の本質」をめぐって	2 0 1 6	(2,300円)
教育方法47.	教育実践の継承と教育方法学の課題 －教育実践研究のあり方を展望する－	2 0 1 7	(2,200円)
教育方法48.	中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか	2 0 1 8	(2,000円)
教育方法49.	公教育としての学校を問い直す －コロナ禍のオンライン教育・貧困・関係性をまなざす－	2 0 1 9	(2,000円)
		2 0 2 0	(2,000円)

(価格は本体価格)

最新刊・教育方法50.

パンデミック禍の学びと教育実践－学校の困難と変容を検討する－

〈内 容〉

- I COVID-19下の子どもと学びの変容
- II COVID-19下の教育課題と授業づくり
- III 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-15

図書文化

TEL. 03-3943-2516